

「地域幸福度(Well-Being) 指標に基づく市民意識調査」および

「地域幸福度(Well-Being)指標に基づく村民意識調査結果に基づく分析」業務



# 地域幸福度(Well-Being)指標に基づく 村民意識調査結果の主なポイント

令和8（2026）年3月

公益財団法人 日本生産性本部

## （１）地域幸福度(Well-Being)指標に基づく村民意識調査について

### ①調査の概要

- 本調査は、村民の地域幸福度に関連する意識を調査し、総合計画の運用の参考とすることを目的に実施した。
- 調査対象として、東海村在住の18歳以上から1,500人を無作為抽出し、郵送又はウェブにより回答を受け付けた。
- 調査期間は令和7年12月22日（月）～令和8年1月16日（金）。
- 調査対象者数（配布数）1,500件に対し、有効回収数は498件（郵送:318件、WEB:180件）であり、有効回収率は33.2%だった。
- （参考：令和6年度実績）有効回収数502件（郵送:382件、WEB:120件）、有効回収率33.5%。

### ②地域幸福度（Well-Being）指標の測定の目的と結果の活用

- 東海村では、「まちづくりの羅針盤～“いいムラ”のデザインと実現～」の指標として、地域幸福度（Well-Being）指標を採用している。
- 令和11（**2029**）年度に幸福度7.0を上回ることを向上目標に掲げ、村民の幸福度を可視化し、計画の推進によりその向上をめざしている。
- 重点政策パッケージとして示す4つのビジョンには、それぞれに地域幸福度（Well-Being）指標を構成するカテゴリーの指標を設定している。
- これらの指標を定期的に測定し、4つのビジョンの進捗を確認するとともに、対象のカテゴリーを構成する因子についての分析を行う。
- 分析の結果を踏まえ、各種施策の方向性を再検討することで、計画の推進を通じた幸福度の向上のため、PDCAサイクルを着実に回すとともに、より機動的で柔軟な行財政運営を目指すこととしている。

### ③結果について

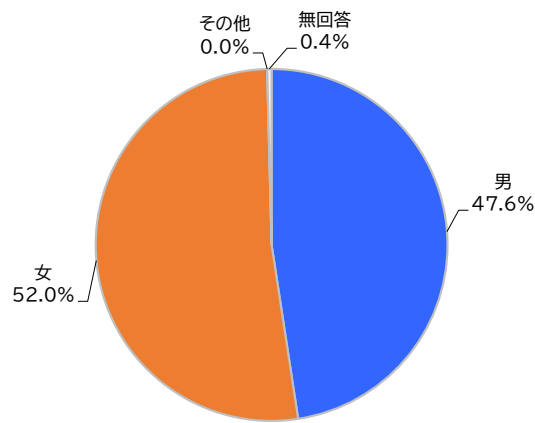
- 各集計の構成比は百分率で表し、四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- 欄外記述による回答、単一回答の設問に対する複数の回答、回答に矛盾にあるものについては、「無効回答」として扱っている。
- 有効回答のみを集計の対象とし、無効回答、無回答は欠損値として集計から除外している。
- 図表中及び文章中、選択肢などを一部省略して表記している場合がある。

# 1. 単純集計結果

(1) 回答者の主要属性

- 回答者の47.6%が男性、52.0%が女性で、平均年齢は56.9歳となった。
- 回答者の小学校区では、中丸小学校（27.1%）、白方小学校（25.3%）、舟石川小学校（20.9%）の小学校区にお住まいの方が多かった。
- 回答者の既婚・未婚の別では、既婚で配偶者ありが71.5%となった。

F1 性別



F2 年齢

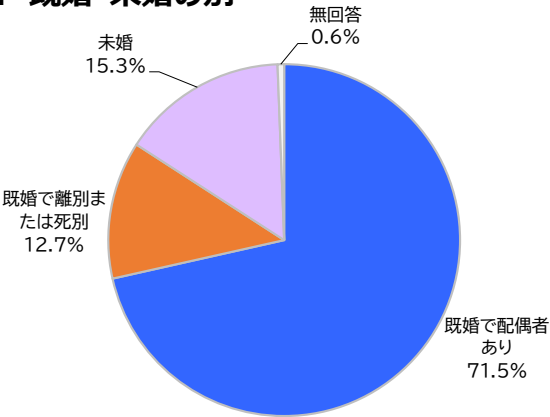
|       | 件数  | %      | 0% | 10% | 20% |
|-------|-----|--------|----|-----|-----|
| 10歳未満 | 1   | 0.2%   |    |     |     |
| 10代   | 12  | 2.4%   |    |     |     |
| 20代   | 34  | 6.8%   |    |     |     |
| 30代   | 53  | 10.6%  |    |     |     |
| 40代   | 74  | 14.9%  |    |     |     |
| 50代   | 92  | 18.5%  |    |     |     |
| 60代   | 73  | 14.7%  |    |     |     |
| 70代   | 83  | 16.7%  |    |     |     |
| 80代   | 57  | 11.4%  |    |     |     |
| 90代以上 | 10  | 2.0%   |    |     |     |
| 無回答   | 9   | 1.8%   |    |     |     |
| 合計    | 498 | 100.0% |    |     |     |

回答者の  
平均年齢  
56.9歳

F3 小学校区

|        | 件数  | %      | 0% | 10% | 20% | 30% |
|--------|-----|--------|----|-----|-----|-----|
| 石神小学校  | 46  | 9.2%   |    |     |     |     |
| 白方小学校  | 126 | 25.3%  |    |     |     |     |
| 村松小学校  | 55  | 11.0%  |    |     |     |     |
| 照沼小学校  | 24  | 4.8%   |    |     |     |     |
| 中丸小学校  | 135 | 27.1%  |    |     |     |     |
| 舟石川小学校 | 104 | 20.9%  |    |     |     |     |
| 無回答    | 8   | 1.6%   |    |     |     |     |
| 合計     | 498 | 100.0% |    |     |     |     |

F4 既婚・未婚の別



## （１）回答者の主要属性

- 回答者の世帯構成では，親と子の２世代世帯が最も多く（45.0％），夫婦だけの1世代世帯（32.1％）が続いた。
- 同居する子どもの状況について，いないという回答が最も多く（51.6％），18歳以上の子どもがいる（21.7％）が続いた。
- 回答者の世帯年収は，300万円以上500万円未満が最も多く（24.5％），100万円以上300万円未満（16.7％）が続いた。
- 回答者の最終学歴は，高等学校が最も多く（39.2％），大学（21.5％）が続いた。

### F5 世帯の構成

|             | 件数  | %     | 0%                     | 10% | 20% | 30% | 40% | 50% |
|-------------|-----|-------|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1人世帯        | 66  | 13.3% | <div><div></div></div> |     |     |     |     |     |
| 夫婦だけの1世代世帯  | 160 | 32.1% | <div><div></div></div> |     |     |     |     |     |
| 親と子の2世代世帯   | 224 | 45.0% | <div><div></div></div> |     |     |     |     |     |
| 親と子と孫の3世代世帯 | 30  | 6.0%  | <div><div></div></div> |     |     |     |     |     |
| その他の世帯      | 13  | 2.6%  | <div><div></div></div> |     |     |     |     |     |
| 無回答         | 4   | 0.8%  | <div><div></div></div> |     |     |     |     |     |
| 合計          | 497 | 99.8% |                        |     |     |     |     |     |

### F6 同居する子ども

|                        | 件数  | %      | 0%          | 10% | 20% | 30% | 40% | 50% | 60% |  |
|------------------------|-----|--------|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| いない                    | 257 | 51.6%  | <div></div> |     |     |     |     |     |     |  |
| 18歳未満の子供がいる            | 104 | 20.9%  | <div></div> |     |     |     |     |     |     |  |
| 18歳以上の子供がいる            | 108 | 21.7%  | <div></div> |     |     |     |     |     |     |  |
| 18歳未満の子供と18歳以上の子供が両方いる | 21  | 4.2%   | <div></div> |     |     |     |     |     |     |  |
| その他の世帯                 | 0   | 0.0%   |             |     |     |     |     |     |     |  |
| 無回答                    | 8   | 1.6%   | <div></div> |     |     |     |     |     |     |  |
| 合計                     | 498 | 100.0% |             |     |     |     |     |     |     |  |

### F7 世帯年収

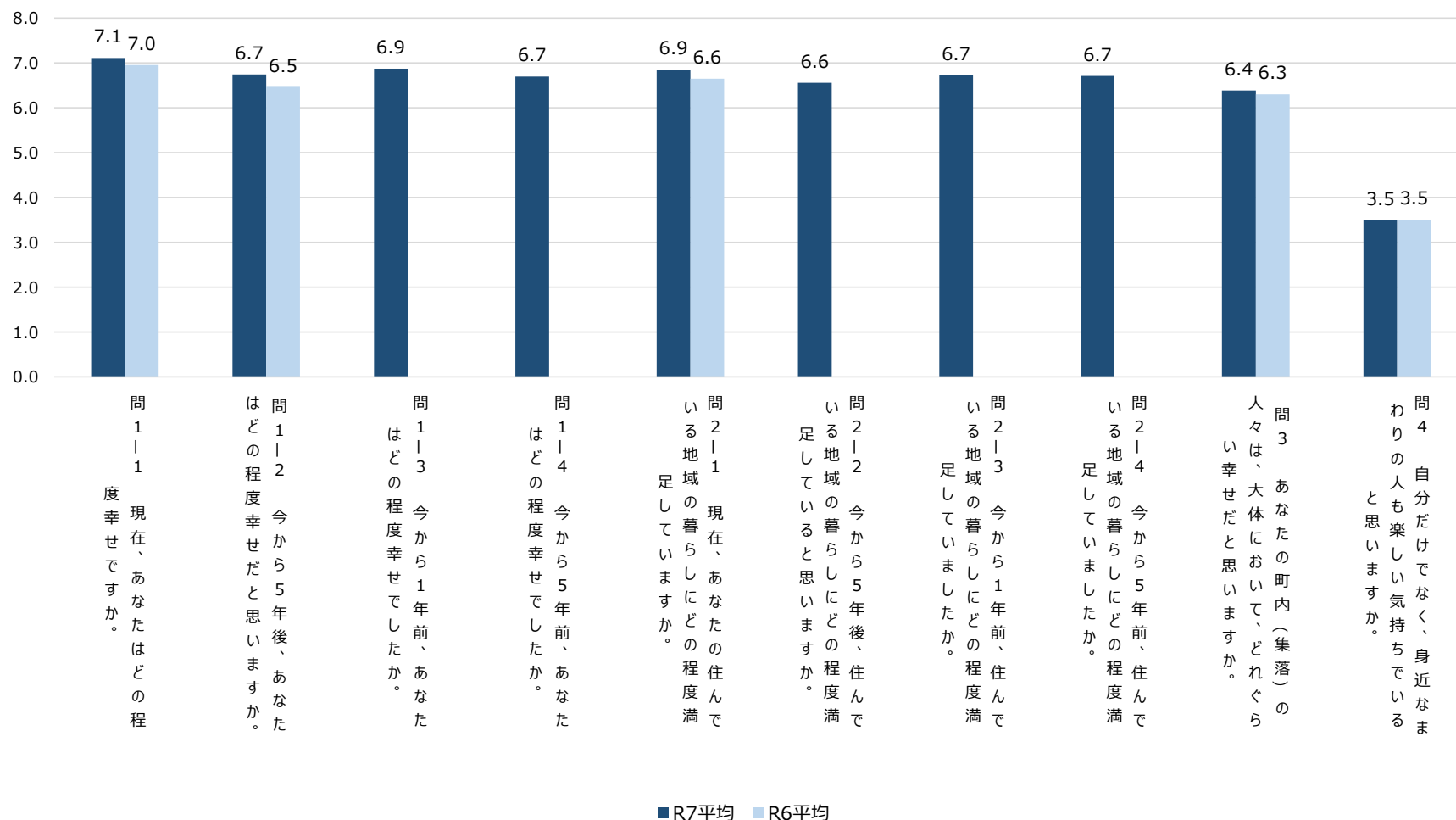
|                    | 件数  | %      | 0%          | 10% | 20% | 30% |
|--------------------|-----|--------|-------------|-----|-----|-----|
| 100万円未満            | 12  | 2.4%   | <div></div> |     |     |     |
| 100万円以上300万円未満     | 83  | 16.7%  | <div></div> |     |     |     |
| 300万円以上500万円未満     | 122 | 24.5%  | <div></div> |     |     |     |
| 500万円以上700万円未満     | 81  | 16.3%  | <div></div> |     |     |     |
| 700万円以上1,000万円未満   | 80  | 16.1%  | <div></div> |     |     |     |
| 1,000万円以上2,000万円未満 | 65  | 13.1%  | <div></div> |     |     |     |
| 2,000万円以上3,000万円未満 | 1   | 0.2%   | <div></div> |     |     |     |
| 3,000万円以上5,000万円未満 | 3   | 0.6%   | <div></div> |     |     |     |
| 5,000万円以上1億円未満     | 0   | 0.0%   |             |     |     |     |
| 1億円以上              | 0   | 0.0%   |             |     |     |     |
| 回答しない              | 39  | 7.8%   | <div></div> |     |     |     |
| 無回答                | 12  | 2.4%   | <div></div> |     |     |     |
| 合計                 | 498 | 100.0% |             |     |     |     |

### F8 最終学歴

|       | 件数  | %      | 0%          | 10% | 20% | 30% | 40% | 50% |
|-------|-----|--------|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 中学校   | 26  | 5.2%   | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 高等学校  | 195 | 39.2%  | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 専門学校  | 61  | 12.2%  | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 高専，短大 | 59  | 11.8%  | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 大学    | 107 | 21.5%  | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 大学院   | 28  | 5.6%   | <div></div> |     |     |     |     |     |
| その他   | 9   | 1.8%   | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 回答しない | 10  | 2.0%   | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 無回答   | 3   | 0.6%   | <div></div> |     |     |     |     |     |
| 合計    | 498 | 100.0% |             |     |     |     |     |     |

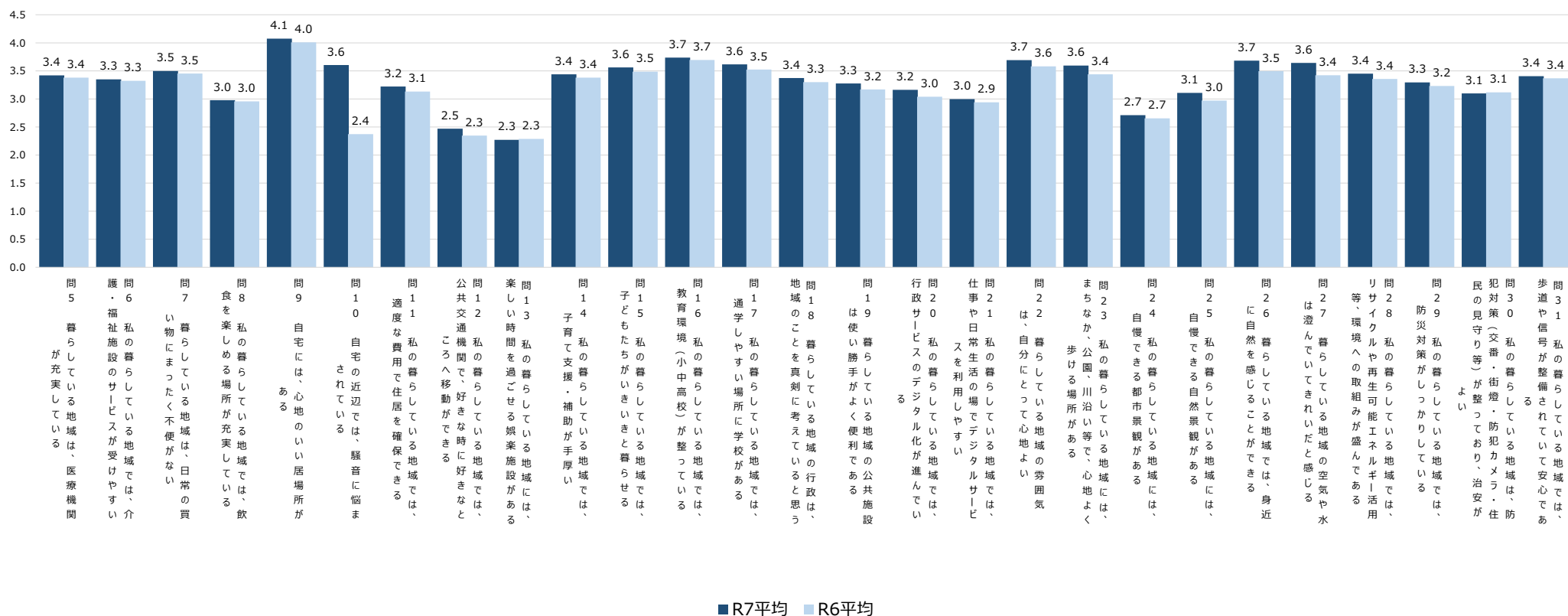
## （２）地域における幸福度・満足度について

- 令和７年度時点の幸福度は7.1で、令和6年度時点（7.0）から0.16上昇した。
- 「問４ 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思いますか。」を除き、経年比較が可能なすべての設問で、令和６年度から令和７年度にかけて平均値は上昇している（問４は-0.01）。



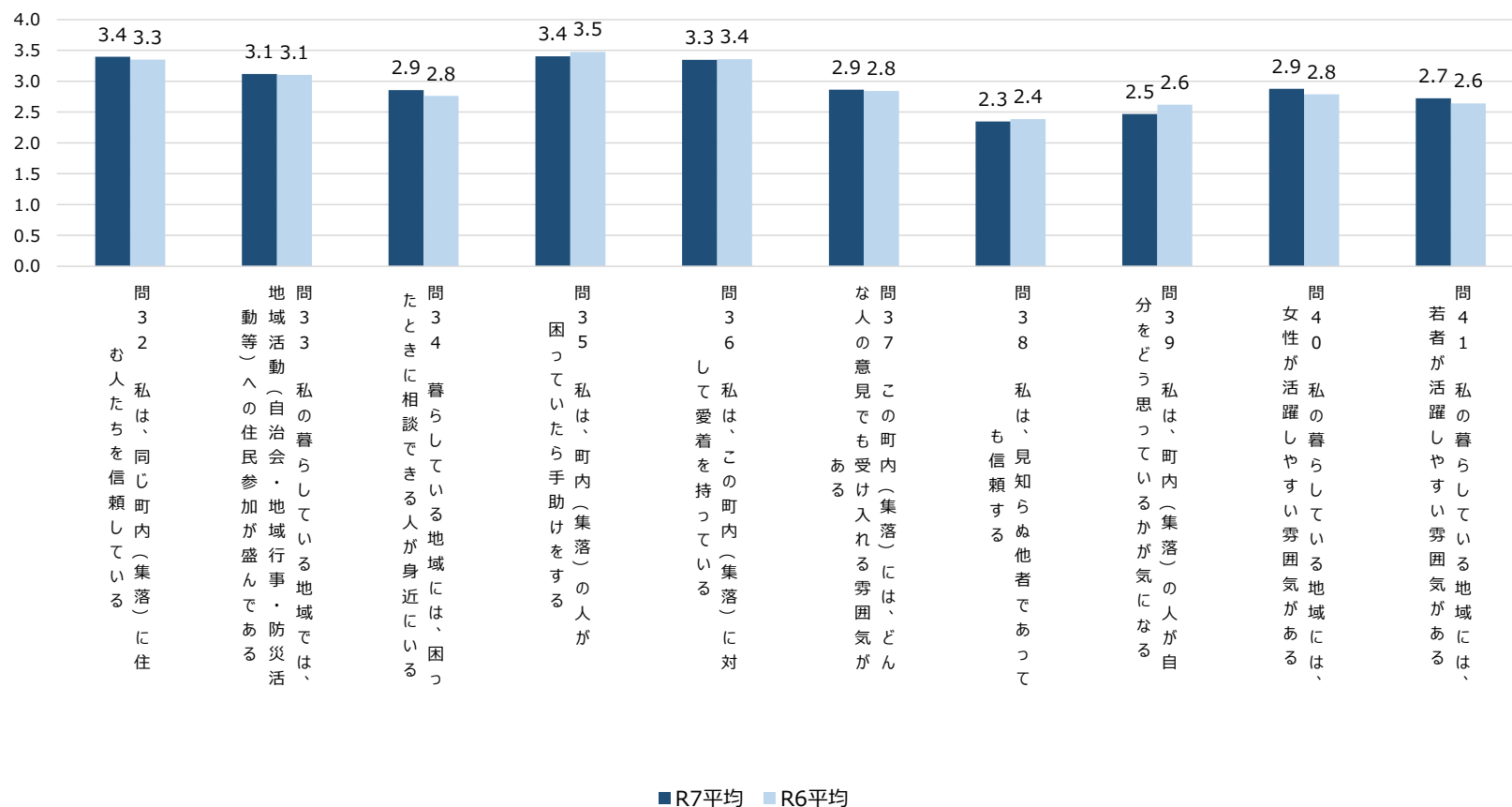
### (3) 生活環境について

- 令和6～7年度にかけて上昇の幅が大きかったのは、「問10 自宅の近辺では、騒音に悩まされている」(+1.23) , 「問27 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる」(+0.22) , 「問26 暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる」(+0.19) など。
- 令和6～7年度にかけて低下の幅が大きかったのは、「問13 私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」, 「問30 私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい」（いずれも-0.02）など。
- 問13, 問30以外の設問では、令和6年度時点の調査結果よりも、令和7年度時点の調査結果のほうが高い水準にある。



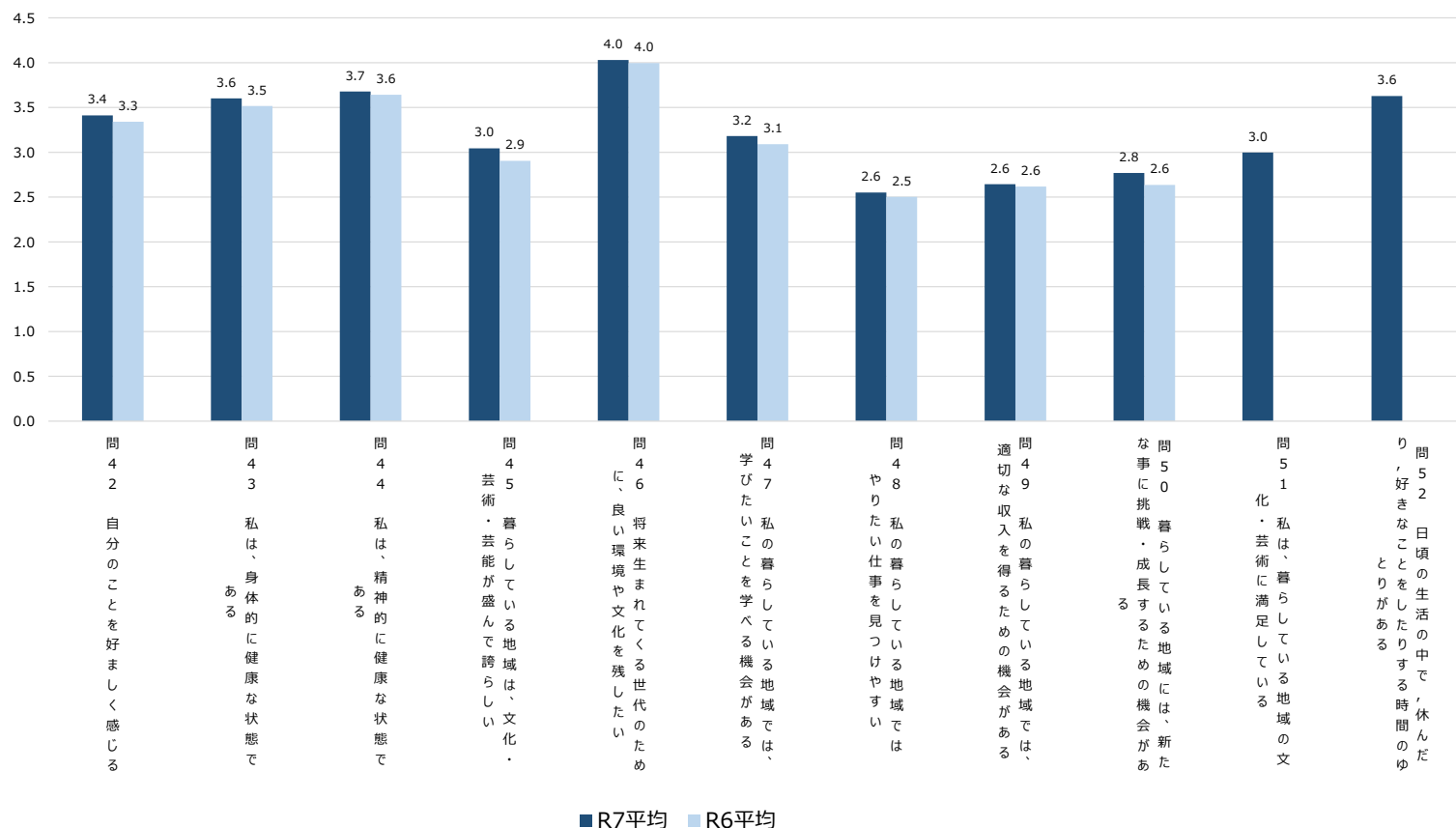
## (4) 地域の人間関係について

- 令和6～7年度にかけて上昇の幅が大きかったのは、「問34 暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる」(+0.10) , 「問40 私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある」(+0.09) , 「問41 私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」(+0.08) など。
- 令和6～7年度にかけて低下の幅が大きかったのは、「問39 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる」(-0.15) , 「問35 私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする」(-0.07) , 「問38 私は、見知らぬ他者であっても信頼する」(-0.04) など。



## (5) 自分らしい生き方について

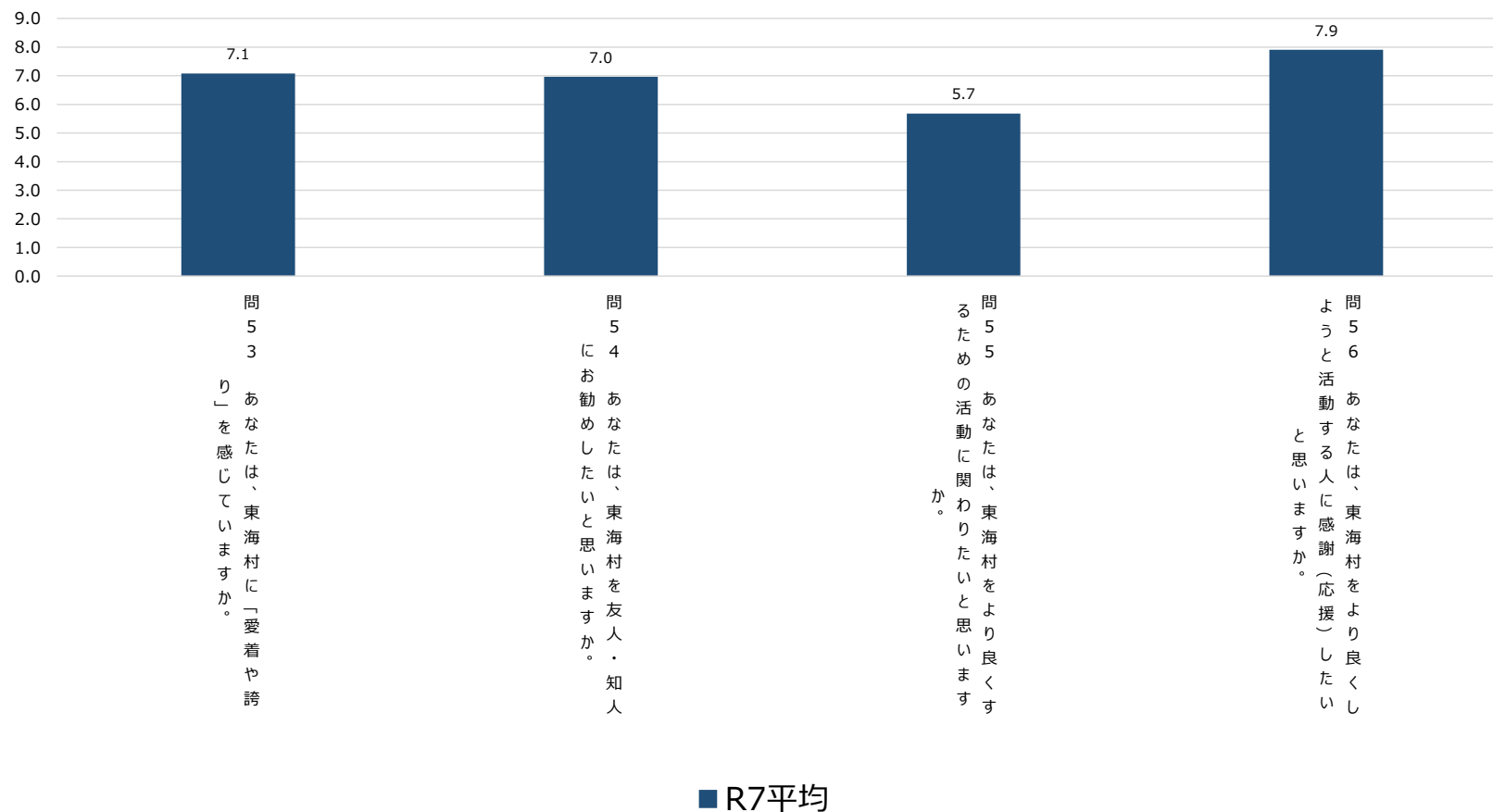
- 経年比較が可能なすべての設問で、令和6年度時点の調査結果よりも令和7年度時点の調査結果のほうが高い水準にある。
- 令和6～7年度にかけて上昇の幅が大きかったのは、「問45 暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」(+0.14)、「問50 暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある」(+0.13)、「問47 私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある」(+0.09) など（小数点以下の端数の関係で、グラフ上の見かけの数値と実際の差が異なる場合がある）。



注：問51、52は追加設問のため令和6年度実績は無い。

## （６）東海村への気持ちについて

- 最も平均点が高かったのは「問56 あなたは、東海村をより良くしようと活動する人に感謝（応援）したいと思いますか。」（7.91）で、最も平均値が低かったのは「問55 あなたは、東海村をより良くするための活動に関わりたいと思いますか。」（5.68）だった。



## (7) 自由記述

| ビジョン                                                                                  | 主な意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ビジョン1</b><br><b>テーマ：人口減少対策</b><br><br>こども・わかものが活躍する，住みごこちのよい・暮らしやすいまちの実現           | <b>子育て経済支援の拡充</b><br>● 給食費無料化，出産祝い金，ランドセル無料配布，お米購入チケット等の現物給付を求める意見など<br><b>若者雇用・定住の促進</b><br>● 正職員でボーナス付きの職場の創出，若い女性が残ってくれるような環境づくり，Uターン者への引越・家賃補助，20～30代の居場所づくり，就労支援の柔軟化を求める意見など<br><b>子どもの遊び場・教育環境の整備</b><br>● 室内遊技施設の整備，公園遊具の充実，学区の広さ改善を求める意見など                                            |
| <b>ビジョン2</b><br><b>テーマ：新たな基盤整備</b><br><br>新たなにぎわいを生み出す都市基盤のデザインとまちなみの整備               | <b>交通・移動手段の充実</b><br>● バス本数の大幅増，デマンドタクシーの充実，電動小型バス（乗合タクシー）による地域循環，駅周辺施設間の連携バスを求める意見など<br><b>商業機能の地域差の解消</b><br>● 駅周辺と郊外地区（照沼・村松・豊岡）の利便性の差の解消を求める意見など<br><b>駅周辺の再開発</b><br>● 駐車場・駐輪場整備や駅西側の公園，スーパー，病院，子育て支援施設配置を求める意見など<br><b>インフラの整備</b><br>● 街灯増設，道路舗装状態の改善，ラインペイントの維持，通学路の交通安全確保を求める意見など    |
| <b>ビジョン3</b><br><b>テーマ：DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進</b><br><br>誰もがデジタル技術を活用し利便性を享受できるDXの推進 | <b>高齢者向けデジタル対応</b><br>● デジタル化と従来方式の並存，段階的な回覧板のデジタル化，ホームページの見やすさの向上を求める意見など<br><b>行政サービスのデジタル化</b><br>● コンビニでの戸籍謄本取得対応，土曜開庁の検討，ネット銀行対応を求める意見など                                                                                                                                                 |
| <b>ビジョン4</b><br><b>テーマ：安全・安心の確保</b><br><br>多様性を基本とする防災対策と心身ともに安心して過ごせるセーフティネットの構築     | <b>防災・防犯</b><br>● 防犯カメラ増設，警察との連携強化，不審者対策の強化，原発安全性への不安解消，具体的な避難対策提示，ペット同伴避難施設の確保を求める意見など<br><b>福祉</b><br>● 高齢者向けに，特別養護老人ホーム大幅増設，グループホーム施設の増設，在宅での最期を迎えられるサポート，歩いて行けるスーパーの各地域への配置，免許返納後の買い物・通院支援を求める意見など<br>● 医療の充実，障害者支援，ごみ出し負担軽減，自治会非加入時のごみ出し問題解決を求める意見など<br><b>その他</b><br>● 空き家対策の強化を求める意見など |

注：上記は自由記述のうち，主なものを各ビジョンに振り分けたもの。

## 2. ダッシュボードによる集計結果

## (1) 地域幸福度(Well-Being)指標ダッシュボードによる個別調査の集計結果について

### ① 地域幸福度(Well-Being)指標が用いる偏差値について

- 地域幸福度(Well-Being)指標では、偏差値化した主観指標・客観指標を使用している。
- 客観指標は、人口10万人以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出している。人口10万人未満の都市については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出している。数値の高い方が悪い状態を表す一部のKPI(交通事故件数等。該当KPIはKPIカタログ参照)については、数値が高いほど偏差値が低くなるように計算式を修正している。
- 主観指標は、人口10万人以上かつ回答数100以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出している。人口10万人未満または回答数100未満については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出している。

#### ■ 偏差値計算式

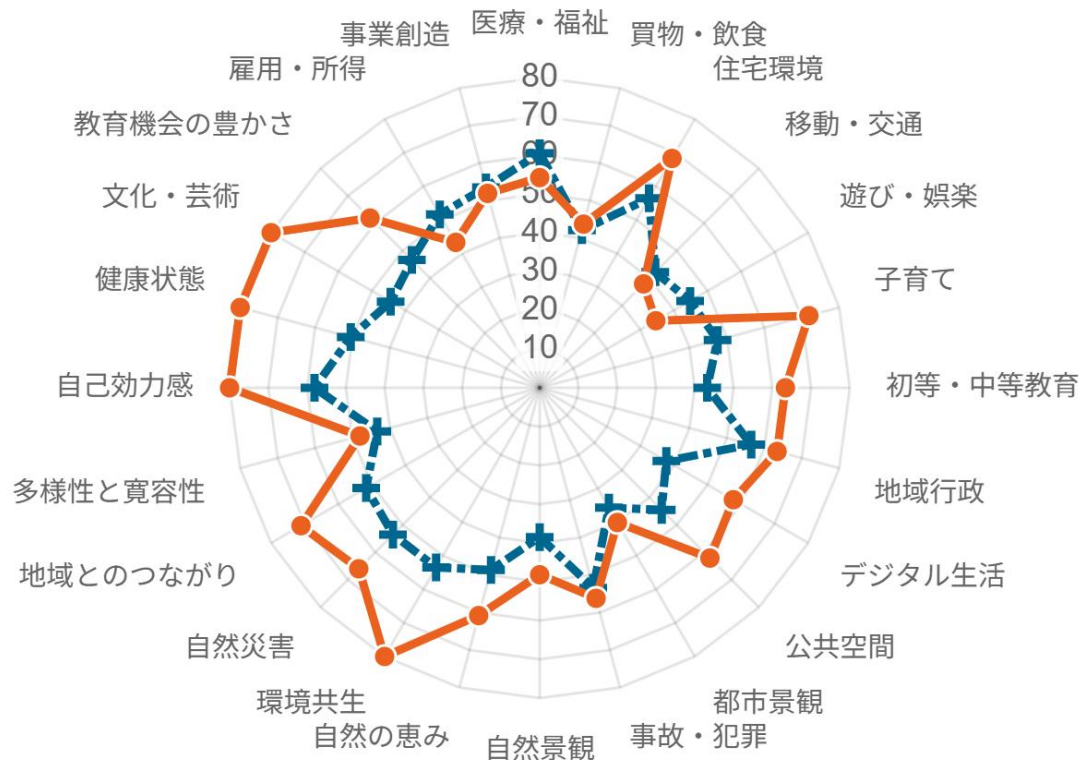
$$(\text{偏差値}) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

(↑数値が高いほど悪い状態を表すKPIについてはマイナスを使用)

(2) 全体の結果の概要

- 偏差値の高かったカテゴリーは、「環境共生」、「自己効力感」、「健康状態」、「文化・芸術」など（いずれも主観データ）。
- 偏差値の低かったカテゴリーは、「遊び・娯楽」、「移動・交通」、「都市景観」など（いずれも主観データだが都市景観は客観データも該当）。

カテゴリー別



| カテゴリ・評価指標 | 主観データ | 客観データ |
|-----------|-------|-------|
| 医療・福祉     | 54.2  | 60.5  |
| 買物・飲食     | 43.7  | 42.1  |
| 住宅環境      | 68.3  | 56.4  |
| 移動・交通     | 37.9  | 42.2  |
| 遊び・娯楽     | 34.6  | 44.8  |
| 子育て       | 71.9  | 47.5  |
| 初等・中等教育   | 63.4  | 43.2  |
| 地域行政      | 63.4  | 56.5  |
| デジタル生活    | 57.7  | 37.7  |
| 公共空間      | 62.1  | 44.5  |
| 都市景観      | 40.1  | 35.7  |
| 事故・犯罪     | 56.2  | 53.4  |
| 自然景観      | 48.2  | 38.5  |
| 自然の恵み     | 60.8  | 48.6  |
| 環境共生      | 80.0  | 53.5  |
| 自然災害      | 66.0  | 53.5  |
| 地域とのつながり  | 71.1  | 51.7  |
| 多様性と寛容性   | 48.0  | 43.4  |
| 自己効力感     | 80.0  | 58.1  |
| 健康状態      | 80.0  | 50.5  |
| 文化・芸術     | 80.0  | 44.4  |
| 教育機会の豊かさ  | 61.9  | 46.6  |
| 雇用・所得     | 43.3  | 51.6  |
| 事業創造      | 51.9  | 53.5  |

【出典】 2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

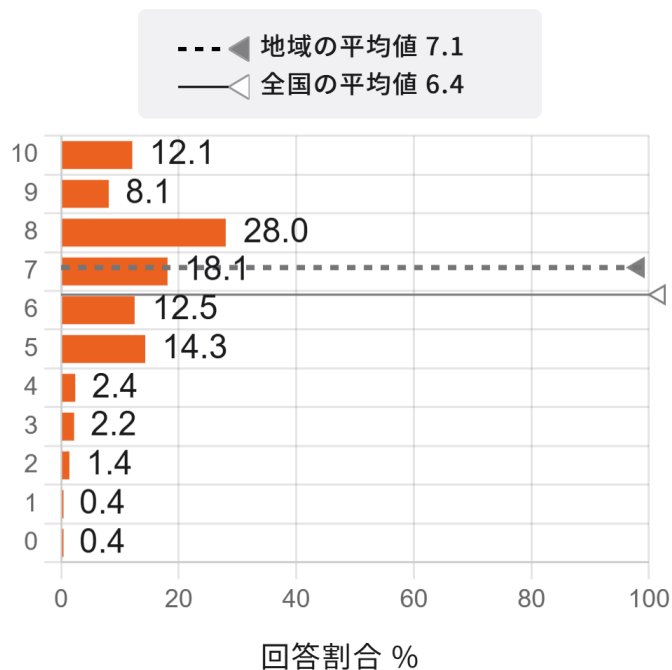
### (3) 幸福度

- 2025年度の本村の幸福度の平均値は7.1となった。
- 2025年度の全国の平均値6.4と比べると、0.7上回る結果となった。
- 2024年度の平均値である7.0と比べると、0.1上回る結果となった。

現在、あなたはどの程度幸せですか。

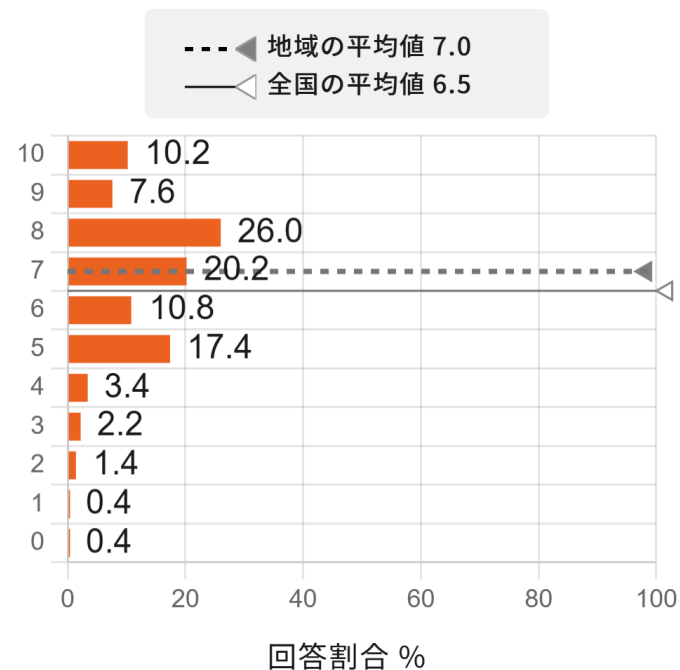
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

2025年度  
幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

2024年度  
幸福度

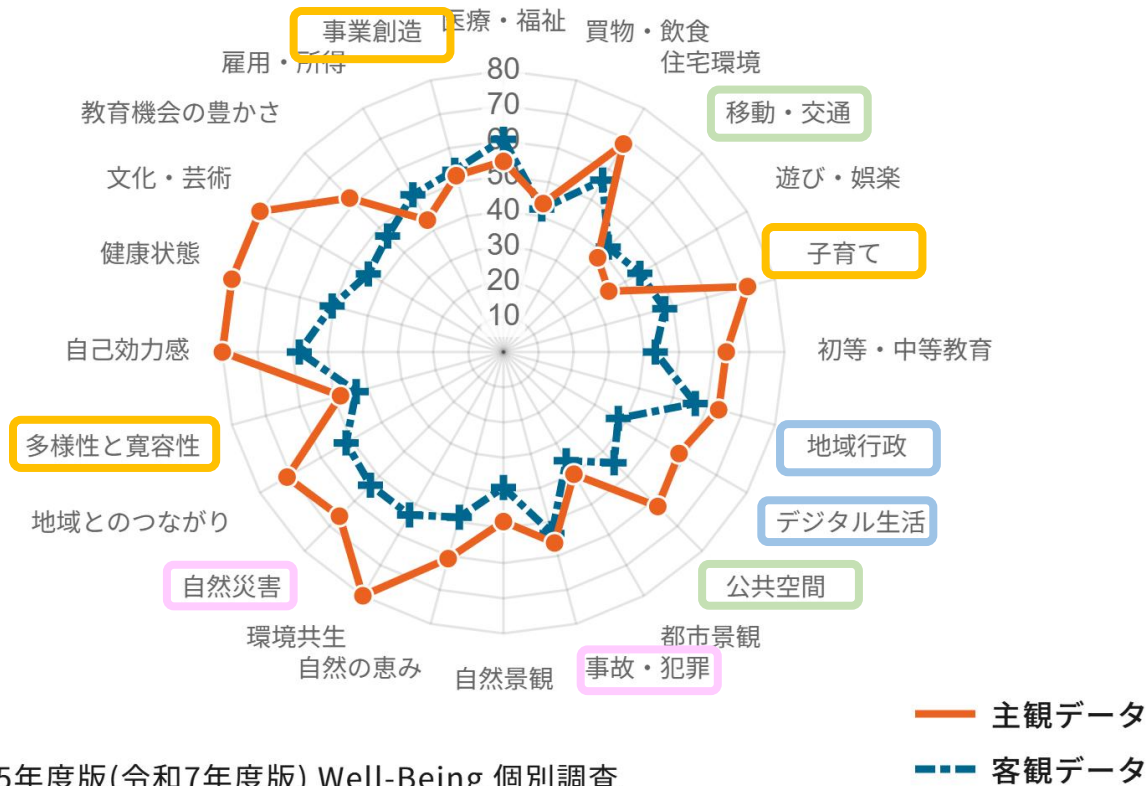


【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

(4) 重点政策パッケージにおけるベンチマークカテゴリー

- 重点政策パッケージにおけるベンチマークカテゴリーは、以下の通り（表中色塗り箇所）。
- これらの偏差値がどのように推移するかを踏まえ、施策内容の検討を機動的に改善する。

カテゴリー別



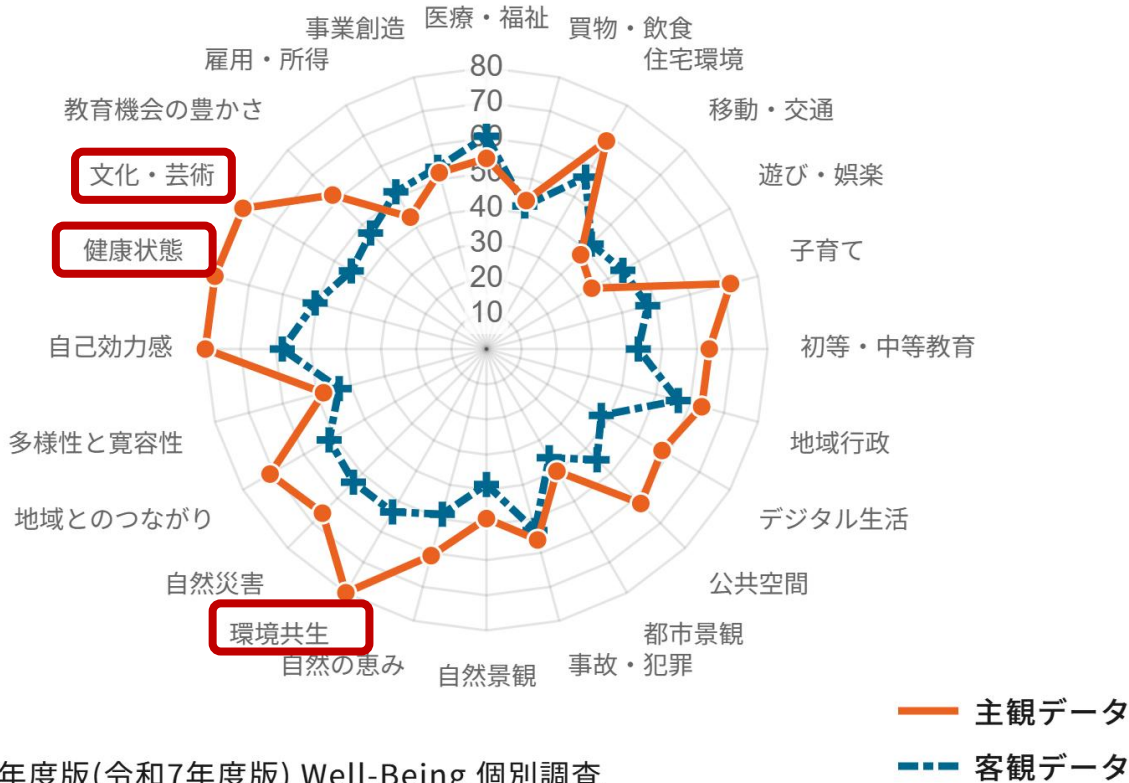
| 該当ビジョン | カテゴリ・評価指標 | 主観データ | 客観データ |
|--------|-----------|-------|-------|
|        | 医療・福祉     | 54.2  | 60.5  |
|        | 買物・飲食     | 43.7  | 42.1  |
|        | 住宅環境      | 68.3  | 56.4  |
| ビジョン2  | 移動・交通     | 37.9  | 42.2  |
|        | 遊び・娯楽     | 34.6  | 44.8  |
| ビジョン1  | 子育て       | 71.9  | 47.5  |
|        | 初等・中等教育   | 63.4  | 43.2  |
| ビジョン3  | 地域行政      | 63.4  | 56.5  |
| ビジョン3  | デジタル生活    | 57.7  | 37.7  |
| ビジョン2  | 公共空間      | 62.1  | 44.5  |
|        | 都市景観      | 40.1  | 35.7  |
| ビジョン4  | 事故・犯罪     | 56.2  | 53.4  |
|        | 自然景観      | 48.2  | 38.5  |
|        | 自然の恵み     | 60.8  | 48.6  |
|        | 環境共生      | 80.0  | 53.5  |
| ビジョン4  | 自然災害      | 66.0  | 53.5  |
|        | 地域とのつながり  | 71.1  | 51.7  |
| ビジョン1  | 多様性と寛容性   | 48.0  | 43.4  |
|        | 自己効力感     | 80.0  | 58.1  |
|        | 健康状態      | 80.0  | 50.5  |
|        | 文化・芸術     | 80.0  | 44.4  |
|        | 教育機会の豊かさ  | 61.9  | 46.6  |
|        | 雇用・所得     | 43.3  | 51.6  |
| ビジョン1  | 事業創造      | 51.9  | 53.5  |

【出典】 2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

（５）主観データと客観データのギャップが大きかったカテゴリー

- オープンデータによる客観的指標と、アンケート結果による住民の主観指標の隔たり（ギャップ）が大きかったカテゴリーは、「文化・芸術」、「健康状態」、「環境共生」など。このうち、「文化・芸術」、「健康状態」は昨年度と同じカテゴリー。
- これらのカテゴリーは、既存の施策とその成果に対する村民の認識のギャップが存在する可能性がある。

カテゴリー別



| カテゴリ・評価指標 | 主観データ | 客観データ |
|-----------|-------|-------|
| 医療・福祉     | 54.2  | 60.5  |
| 買物・飲食     | 43.7  | 42.1  |
| 住宅環境      | 68.3  | 56.4  |
| 移動・交通     | 37.9  | 42.2  |
| 遊び・娯楽     | 34.6  | 44.8  |
| 子育て       | 71.9  | 47.5  |
| 初等・中等教育   | 63.4  | 43.2  |
| 地域行政      | 63.4  | 56.5  |
| デジタル生活    | 57.7  | 37.7  |
| 公共空間      | 62.1  | 44.5  |
| 都市景観      | 40.1  | 35.7  |
| 事故・犯罪     | 56.2  | 53.4  |
| 自然景観      | 48.2  | 38.5  |
| 自然の恵み     | 60.8  | 48.6  |
| 環境共生      | 80.0  | 53.5  |
| 自然災害      | 66.0  | 53.5  |
| 地域とのつながり  | 71.1  | 51.7  |
| 多様性と寛容性   | 48.0  | 43.4  |
| 自己効力感     | 80.0  | 58.1  |
| 健康状態      | 80.0  | 50.5  |
| 文化・芸術     | 80.0  | 44.4  |
| 教育機会の豊かさ  | 61.9  | 46.6  |
| 雇用・所得     | 43.3  | 51.6  |
| 事業創造      | 51.9  | 53.5  |

【出典】 2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

## (6) 幸福度との相関関係の分析

- 2つのデータの間の“関係性の強さ”を表す値である相関係数に基づく分析を行った。
- 幸福度との相関が強い因子は、「健康状態」(0.44)、「自己効力感」(0.42)、「住宅環境」(0.40)、「文化・芸術」(0.40)など。
- すなわち、幸福度が高い人ほど、これらの因子も高い傾向があると解釈できる。

### <相関係数の説明>

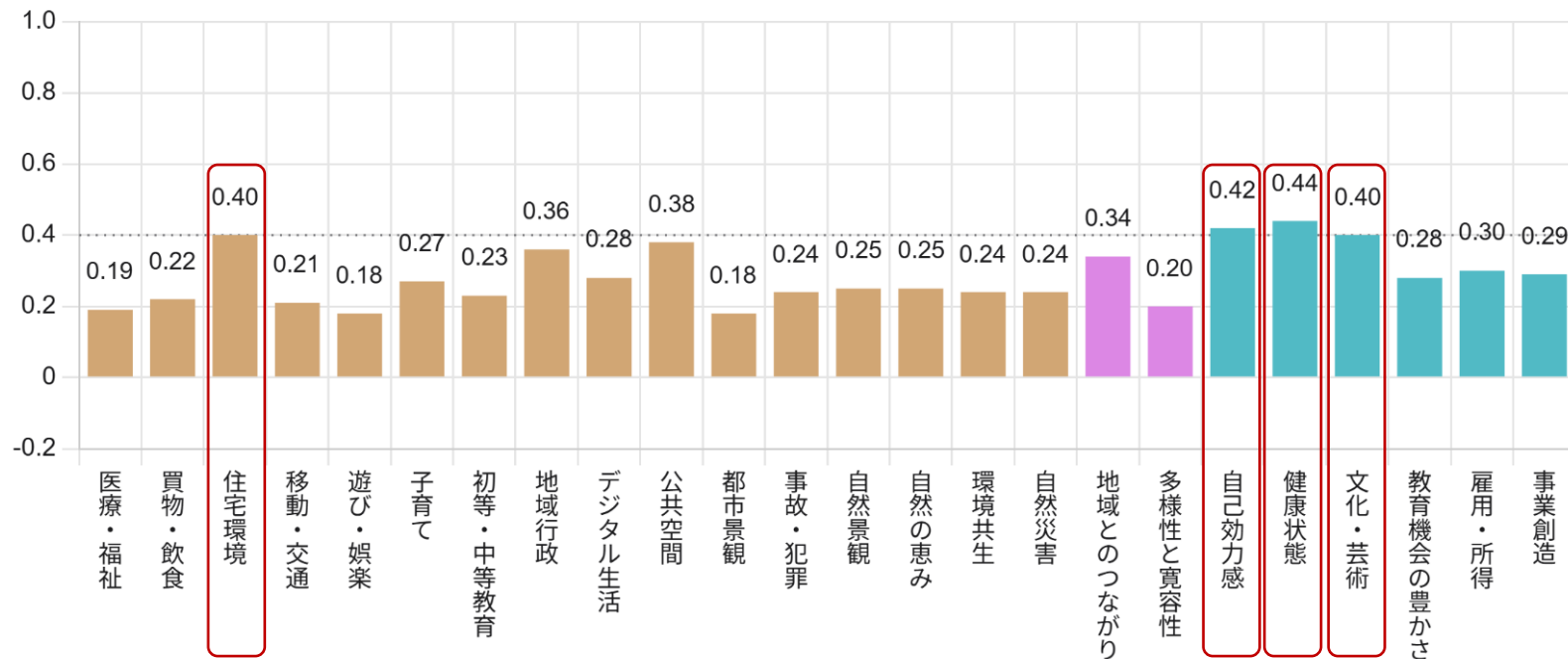
- ・ 相関係数とは、2つのデータの間の“関係性の強さ”を表す値で、-1から1の間の値で表現されます。
- ・ 0から離れている方がより強い相関関係を意味します。

### <相関係数の目安(正の相関の時)>

- ・ 0.7以上：相関が非常に強い
- ・ 0.4～0.7：相関が強い
- ・ 0.4未満：相関が弱い

### 幸福度と因子との相関係数

● 生活環境 ● 地域の人間関係 ● 自分らしい生き方



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

注：相関係数の説明及び目安についての説明は、デジタル庁の定義による。

## (7) 調査結果の経年変化

- 主観データ偏差値及び客観データ偏差値について、2024年から2025年の各カテゴリ・評価指標の経年変化を示す。
- 主観データ偏差値の上昇が見られたのは、「公共空間」(+8.1)、「自然の恵み」(+7.3)、「事業創造」(+6.9) など(太字)。
- 主観データ偏差値の低下が見られたのは、「遊び・娯楽」(-1.5)、「多様性と寛容性」(-1.3) など(太字・斜め字)。
- 客観データ偏差値の上昇が見られたのは、「健康状態」(+2.9)、「雇用・所得」(+1.0)、「環境共生」(+0.6) など(太字)。
- 客観データ偏差値の低下が見られたのは、「デジタル生活」(-4.8)、「自己効力感」(-4.1)、「買物・飲食」・「初等・中等教育」(いずれも-3.7) など(太字・斜め字)。

| 該当<br>ビジョン | 因子群      | カテゴリ・評価指標 | 主観データ偏差値 |          |        | 客観データ偏差値 |          |        |
|------------|----------|-----------|----------|----------|--------|----------|----------|--------|
|            |          |           | R6(2024) | R7(2025) | 前年度との差 | R6(2024) | R7(2025) | 前年度との差 |
|            | 生活環境     | 医療・福祉     | 51.9     | 54.2     | 2.3    | 60.1     | 60.5     | 0.4    |
|            | 生活環境     | 買物・飲食     | 42.2     | 43.7     | 1.5    | 45.8     | 42.1     | -3.7   |
|            | 生活環境     | 住宅環境      | 62.6     | 68.3     | 5.7    | 56.4     | 56.4     | 0.0    |
| ビジョン 2     | 生活環境     | 移動・交通     | 36.3     | 37.9     | 1.6    | 45.2     | 42.2     | -3.0   |
|            | 生活環境     | 遊び・娯楽     | 36.1     | 34.6     | -1.5   | 44.8     | 44.8     | 0.0    |
| ビジョン 1     | 生活環境     | 子育て       | 69.1     | 71.9     | 2.8    | 49.9     | 47.5     | -2.4   |
|            | 生活環境     | 初等・中等教育   | 59.7     | 63.4     | 3.7    | 46.9     | 43.2     | -3.7   |
| ビジョン 3     | 生活環境     | 地域行政      | 60.8     | 63.4     | 2.6    | 56.5     | 56.5     | 0.0    |
| ビジョン 3     | 生活環境     | デジタル生活    | 56.3     | 57.7     | 1.4    | 42.5     | 37.7     | -4.8   |
|            | 生活環境     | 公共空間      | 54.0     | 62.1     | 8.1    | 44.5     | 44.5     | 0.0    |
|            | 生活環境     | 都市景観      | 39.2     | 40.1     | 0.9    | 35.7     | 35.7     | 0.0    |
| ビジョン 4     | 生活環境     | 事故・犯罪     | 55.9     | 56.2     | 0.3    | 53.4     | 53.4     | 0.0    |
|            | 生活環境     | 自然景観      | 43.5     | 48.2     | 4.7    | 40.3     | 38.5     | -1.8   |
|            | 生活環境     | 自然の恵み     | 53.5     | 60.8     | 7.3    | 48.6     | 48.6     | 0.0    |
|            | 生活環境     | 環境共生      | 77.0     | 80.0     | 3.0    | 52.9     | 53.5     | 0.6    |
| ビジョン 4     | 生活環境     | 自然災害      | 62.9     | 66.0     | 3.1    | 53.5     | 53.5     | 0.0    |
|            | 地域の人間関係  | 地域とのつながり  | 67.8     | 71.1     | 3.3    | 51.7     | 51.7     | 0.0    |
| ビジョン 1     | 地域の人間関係  | 多様性と寛容性   | 49.3     | 48.0     | -1.3   | 43.4     | 43.4     | 0.0    |
|            | 自分らしい生き方 | 自己効力感     | 74.9     | 80.0     | 5.1    | 62.2     | 58.1     | -4.1   |
|            | 自分らしい生き方 | 健康状態      | 79.9     | 80.0     | 0.1    | 47.6     | 50.5     | 2.9    |
|            | 自分らしい生き方 | 文化・芸術     | 73.6     | 80.0     | 6.4    | 45.3     | 44.4     | -0.9   |
|            | 自分らしい生き方 | 教育機会の豊かさ  | 57.1     | 61.9     | 4.8    | 46.6     | 46.6     | 0.0    |
|            | 自分らしい生き方 | 雇用・所得     | 42.3     | 43.3     | 1.0    | 50.6     | 51.6     | 1.0    |
| ビジョン 1     | 自分らしい生き方 | 事業創造      | 45.0     | 51.9     | 6.9    | 55.5     | 53.5     | -2.0   |

## (8) 散布図による分析

- 以下は、客観データと主観データそれぞれの偏差値を散布図として示したものである。
- 偏差値の平均は50である。したがって、赤枠で囲った「都市景観」、「移動・交通」、「買物・飲食」、「遊び・娯楽」、「多様性と寛容性」、「自然景観」の各カテゴリは、他のカテゴリと相対的に比較して、現状に対する改善の優先順位が高いと考えられる。

